

井伏 鱒二 (いぶせ ますじ)

明治31(1898)年～平成5(1993)年

本名は井伏満壽二(いぶしますじ)。「山椒魚」「黒い雨」で知られる大正、昭和を代表する小説家。鱒二と名乗るほどの無類の釣好きでも有名。

ふくやま文学館



福山市と近隣市町村ゆかりの文学者を紹介。中心展示の「井伏鱒二の世界」は創作活動をたどる。趣味人であった井伏の日常も展示。福山市丸之内1丁目9-9 ☎084-932-7010、9:30～17:00、月休、P有

「井伏鱒二の世界に触れてください」

時代ごとに創作された約30作品の展示を通して、井伏の生涯をわかりやすく解説しています。

館長 岩崎 文人さん



読みたい一冊

原爆投下で広島に降った黒い雨。20世紀最大の悲劇を静かな語り口で描いた井伏の記念碑的作品。後世に伝えたい不朽の名作。新潮社。



ひと休みトーク Tabi no Bookmark

仙酔島ではゆったり、ゆっくり、名物湯に癒されよう。

島内には日帰り入浴できるふたつのホテルがある。島内を散策した後は、お湯に浸かって元気をチャージしよう。



海水を汲み上げ沸かしたミネラルたっぷりの「潮風呂」に、よもぎ風呂、展望貸切風呂などがある。

国民宿舎仙酔島
福山市鞆町後地字田ノ浦3373-2 ☎084-970-5050



焚き上げ洞窟蒸し風呂の「江戸風呂」や流れるように汗が吹き出す風呂、瀬戸内を望む露天風呂もある。

人生感が変わる宿「ここから」
福山市鞆町後地字3371 ☎084-982-2111



“潮待ち風待ち”の港まち、輛の浦。

古くは万葉集にも詠われた景勝の地。常夜燈をシンボルに、江戸時代の商家が残るレトロなまち並みが人気だ。晩年の作品『輛ノ津茶会記』は、ここでの茶会で秀吉などを肴に戦国武将や僧侶らが気ままな噂話を繰り上げた歴史ファンタジーだ。

常夜燈 福山市鞆町843-1

パワースポット・仙酔島を探索しよう。

“仙人も酔うほど美しい島”とされ、自然の神秘とエネルギーを体感できる。パワースポット巡りの入口には海食門がある。島内をめぐるハイキングコースもある。

市営渡船場
福山市鞆町後地623-5
☎084-982-2115
7:10～21:30、P隣接



坂本龍馬ゆかりの船を模した「平成いるは丸」に乗り、5分で渡れる。

“黒い雨”が降ったまち、広島へ。

原爆で被災した主人公の苦悩を綴った『黒い雨』は、井伏の最高傑作とされる。ドライブの最後は、ここまで足を運びたい。

世界遺産・原爆ドーム
広島市中区大手町1-10



加茂町の旧家で味わう贅沢なひと時。

井伏が育った加茂町から福山市内に向かう道沿いに風格ある佇まいの屋敷がある。元々は加茂町の名士だった窪田次郎の生家造り酒屋の母屋として移築したもので、いまは食事処になっている。往時の雰囲気漂うテーブル席の座敷で食べる自慢の膳はリーズナブルで、昼どきのひと休みにぴったりだ。



旨匠 仁助(ししょうにすけ)
福山市加茂町中野555
☎084-972-3438
11:00～21:00、不定休、P有

対潮楼からの絶景にしばし酔いたい。

福禅寺にある客殿「対潮楼(たいちょうろう)」は江戸時代に創建されたもので、座敷からの眺望が素晴らしい。朝鮮通信使によって「日東第一形勝(朝鮮より東で一番美しい景勝地)」と絶賛されたという。



対潮楼
福山市鞆町2
☎084-982-2705、
8:00～17:00、P近隣



輛の浦の「対潮楼(たいちょうろう)」から仙酔島(せんすいじま)を望む。手前は弁天島。

ふるさとのまちには、別れと旅立ちの岐路があった。だれにでも人生の岐路になる節目や別れがある。中国唐代の于武陵(うぶりよう)が書いた漢詩「勸酒」は、友と飲み交わす酒を題材に人生には別れはつきものだと言っている。解釈はさまざまだが、その最後の二節を「さよならだけが人生だ」と訳したのが、飄々とした風貌と洒落な作風で知られる井伏鱒二だ。聞き覚えがある人も多いだろう。

出合いがあれば、別れは必ず訪れる。居心地いい場所に留まるより、別れを糧に次の一歩を踏み出す。それが生きる意味ということだろうか。幾つもの悲しい別れを経た井伏の人生にも重なる。

井伏は明治31(1898)年に広島府の安那郡加茂村(現福山市加茂町)に、代々地主を継ぐ旧家に生まれた。し



四川沿いに建つ井伏鱒二文学碑。

川沿いに建つ井伏鱒二文学碑。卒業後は画家を目指し京都・奈良に3カ月のスケッチ旅行、日本画家の橋本関雪に弟子入りを試みるが断られ、文学へ道を変え早稲田大学に編入、文学部に進むがここでは教授との一悶着で退学する。

大正12(1923)年に発表した『幽閉』(後に『山椒魚』)で注目を集め、昭和13(1938)年の『ジョン万次郎漂流記』が直木賞を受賞、人気作家の地位を築く。昭和41(1966)年には最高傑作といわれる『黒い雨』を発表する。

生家は親族が継ぎ、母校は移転。少年期を過ごした加茂町には、井伏の足跡を残すものは多くない。のどかな生家近くの四川沿いに建つ井伏鱒二文学碑には、冒頭の漢詩の井伏の訳文が刻まれる。

かし、幼くして祖母、弟、父を次々に亡くし、心に暗い影を落とすことになる。そんな井伏の悲しみを救ったのは祖父の存在で、尋常小学校から名門の福山中学校(現福山誠之館高校)へ進み、この校庭で飼われていた山椒魚が処女作のヒントになった。

はじめに汽車に乗り訪れた福山城、海釣りを初体験した輛の浦、祖父の愛にあふれた思い出の地を回ろう。

波音を聞きながら執筆したであろう輛の浦は、晩年の『輛ノ津茶会記』の舞台にもなっている。郷土に深く根差した作品が多い井伏の人生をゆつくり辿りたい。

さよならだけが人生だ



いぶせ ますじ
井伏鱒二と福山

[広島県]

福山城は祖父が井伏を連れ出した思い出の場所。

元和8(1622)年に徳川家の家臣、水野勝成が築き、福山は備後10万石の城下町として栄えた。重要文化財に指定される伏見櫓、筋鉄(すじがね)御門に、復元された天守閣は福山城博物館になっている。

福山市立福山城博物館
福山市丸之内1-8
☎084-922-2117、9:00～17:00、月休

